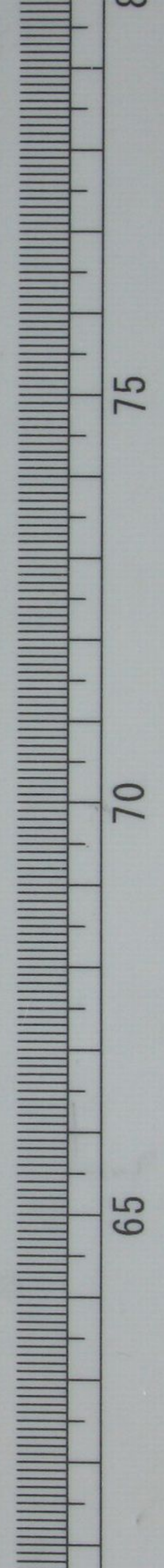




四季
新編
花
全

中村俊定文庫
文庫 18
761



65
70
75

杉の中葉

能譜



篇はもとくは嘆乃翁擲のふと
 家しよあういゝゝゝ少ゝ中ゝゝゝ
 掃葉捲杉風影ゝゝゝ故白巻周
 何ゝゝゝ常に婦ゝゝゝ流儀を
 流いぬは乞ゝゝゝ序上乃一脚と
 乃一脚となすもの

あらし 序を鳥丸光彦の跋より立角一巻
とてまよふ略す

採茶庵松風編



寛政元末秋

俳諧杉の系



採茶庵松風編

立春	年々えて	若々	門松	多々ひひ	版赤契
劫契	四方ね	小胡ね	三物連袂え	院想礼	いゝ白
連哥	呂れちち	ちり	かこもち	あざり	子日
萩孝	初々さま	けいさま	年徳	少々男	こ〜玉
かむのこ	ちつてえ	玉ぶく	ちちやう	孫子板	ち〜め
不うひま	さ不昨	孫香	松の屯	りまやう	小ぬるか
少か〜	松の係	く〜	少のため	屠換白散	昆沙門功恒經
丸義長	平園山洲	葉摘川神子	此香と云	徐々	沙子流秋子

箱鳥	改年	かすこ	子事万葉	若き歌	夕川
かんとほふ	大ふく	七葉	ぬくこ	心	飯木
廿日たんに	木葉栗皮	我うひそめ	さそろ	番	か
さうら	踏	さうら	ふみ	七日	代
さうら	かち	多	うけ	七	いて
さうら	ふと	さふ	肌	山	よ
さうら	け	わ	具	梅	茶
さうら	福	根	お	菜	菜
さうら	ひ	公	目	わ	木

長栄	うら	尾	か	綿	白
つ	紅	山	椿	花	野
綾	子	ね	多	雀	雀
さ	え	東	ね	月	

二月

柳	改	田	花	苗	蛙
鳥	身	佛	石	出	吉
ね	二	ね	少	美	熊
ね	ね	ね	間	玉	谷
ね	ね	ね	祭	落	先
ね	ね	ね	祭	谷	陣

権系三女のけさうちの浦	ハ島軍	海棠不け	いとぢふ	かまうふ
百千鳥	うぶこき	胡てふ	あひま	くまぬ
防凡	うと	川ちさ	あま	みんにく
のびふ	にら	つさつさ	つむふ	まゆの根
葉大根のを	まこれ	つが木	まゆ	鹿の角
まのさか	蜂の巣	蛇虫の出	まゆ	さうけ出
餅ふま	もぬこ	飯増	まゆ	がうな
あまのこ	つがみ	まゆ	まゆ	たんぼ

三月

とくし	あま	おの酒	うらもち	鶏のハ
佐吉以千	曲水のえん	土佐海	石山	栗母
ひいふ	己の日の後	一兵寺	あま	やうい
人丸忌	吉野と三式	ひら	天台	念佛
嗟嘆大い	ふか	ひら	天台	念佛
花	いふ	あま	あま	念佛
は下花	藤坊	小采花	小梅	念佛
まき	いふ	まき	あま	念佛
やう	の花	あま	あま	念佛

梅	茶作	ふ	のほりやふ	竹の奴	くニ
うこぎ	す茶	なもこ	春葉	うま菊	くうらこ
ろひ林	そじん	さらうま	合風を	け安ん	丁子叶
眉作	七重む	芽む	九人ん	合海を	菊うへか
つこむ	二茶	七り	ちうら	炎勢	三月大根
せんま	ろび	と安き	うも	雀子	鴨の菓
さくうく	あさう	鯛	梅貝	まの	
裕	衣うへ	風炉の茶	錦麻糸	く川	盤
					まら

四月

何とく	新茶	茶	山	ち	仙のう
山科	水屋の	い	ハ	卯	ちや
寛	何とん	ハ	友	堅	大
廣	ハ	山	千	茶	茶
の	茶	長	白	ふ	た
ふ	神	麦	か	神	ま
立	味	地	日	木	坂
高	向	福	廣	梅	大
相	ま	拍	か	菘	厚

平定おふ 松尾おふ 吉田おふ さいまき茶系 小うちやく / 中 / 小
 風ふるま 村表のむ 梅のこ 長妻 てまわり ちふひ
 おくろをれ 様む ぬぐい 第根うつさち 今ねむ 園白か後後
 尚麻法事 五歩引ま 休の子 鹿の袋角 坂倉島 かんこき
 まゆりく ぐんる 飯酢 持つり去 ふな籠 いちご
 五月
 競る ちりくろく 松中おふ のほり 萱蒲 萱蒲刀
 端午 ちおね 夏妻等 冥明おふ ついでむ 五月雨
 梅のふ ちと一もの かくさく うちのむ 茶ふ たらをれ

おくろのむ 今まおふ 室お新系 住七 西田植 山田の西田う
 ちうらー 教政の伝念哉 教政おきと村 煮くまの向 ちんぐんの外 若井
 下地 ちま田 ちま梅 坂 坂 坂 坂
 五七女 此のを 袴川 ちる露 川つり 河也
 同ころ 飯茶 柳の花 ち甲のむ ち山柳 葉のま
 小梅のま 阿んね やまこ びり 下地のを 南天のを
 及冬の花 菅草のむ 石首 胡菊 ちらん 美人州
 けいもの物 としー 麻好子 ちふむご ちこの眉 袴のま
 ちまの草 つんりの草 中り 細のむ ねまきま 土汁のむ

まいたんひ	まのひむ	改帳抄	半夏子	ま夏母	かくばこ
ふん草	かぶこ	まのひむ	木の下やみ	むろのひ	お布川
はに七州	ま飯	切麦	まめうき	海松	こ
ちんさへ	あまのむ	うづ	栗まく	ひえまく	うきまく
柳舟まく	ちんさ	ほうり	かたふ	くら豆引	かゆ
わさび	わさび	夏野の子	うづぐり	まろし	蛇衣をぬく
柳の葉臭	小阿ぢ	あもも	つむぎ	ひる	
六月					
お餅おふ	お餅おふ	はあふ	うら	榎田祭	養生坊祭

能木	江戸山王祭	赤坂喰	扇	團扇	産院の涼
くま竹切	橋立	みづ	伊勢糸礼	志成寺祭	うきさ日活
おは先指	天神板	せみ	おと	何れきり	おはこ
さき	何せ	行ぬ	かき	くらくらん	夏が
夏切の茶	なす	石井	あす	さけ	土用が
ひるのぬ	さこ	さくらん	干飯	風う	すすこ
梅片け	梅を干	梅と干	おち	おち	梅捨
合掛のむ	百日紅	さくら	おの	一お	晒井
蓮	つせん	かん	おぬ秋	福	おぬ

蠅	つらり	蜂咬人	凌辱也	まがうり	まきんころ
帛の尾のむ	つらり	くさくさ	おもしろ	こころ	まきめむ
蒲の穂	くさくさ	おもしろ	かきり	麻の花	まきめむ
藍刈	紫菀	香薷	蒜の根	かきり	まきめむ
胡瓜	昨う	つらり	あふ	まきり	干瓢をく
豆乳のむ	あふ	あふ	毛を	海月	鱧肉
鰻はる	七拂	あふ	あふ	あふ	あふ
七月	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ
立秋	あふ	あふ	あふ	あふ	あふ

秋涼	夏	冬	七夕	きりこ	揚灯籠
岑	文殊會	流水千日酒	三井の糸	七日のむ	祿の糸
稲妻	秋の宮	いこ	まきの飯	日	まきの飯
聖霊祭	セリ	とく	む火	相	やま
冷麦	枕のこ	本此のこ	むくけ	まきのむ	まきのむ
仙露	旭吹	ねり	まきのむ	まきのむ	まきのむ
辛牛	まゆ	まひ	まきのむ	まきのむ	まきのむ
ふやつ	角カ	立田	まきのむ	まきのむ	まきのむ
鹿	鹿尾草	まきのむ	まきのむ	まきのむ	まきのむ

桔梗	まんぢおどり	えのこま	茶 ^か のむ	小車 ^{こぐるま} のむ	やいと茶
あこま	えびのこ	まこのこ	なまら	かるこ	あふこ
かき	ちせ	くま	田の虫	とん	いか
律のま	ちんちん	鯉	虫		
八月					
梅のお	たのむ	えり	塚天神	白	敷
志加	すま	木の春	司	吐	衣
月	ス	放生	お	屋	あ
う	ぶ	黄	を	い	お

月草	高州	む	ア	シ	中
宇	筑	筑	筑	筑	筑
頼	朝	好	茶	葛	仙
風	仙	こ	か	さ	け
け	を	くら	さ	う	の
苗	香	の	野	冬	小
初	香	野	分	冬	房
ぬ	々	葛	の	根	茶
せ	三	根	茶	堀	酒
根	茶	堀	酒	田	

菜大根種 <small>よく</small> 菜大根百引	からく <small>よく</small> からく <small>よく</small>	田の検見	りく <small>よく</small>
たいふ <small>よく</small>	え川さい	時つ <small>よく</small> 畑	うつ <small>よく</small> 畑
ひえ <small>よく</small>	か <small>よく</small> き	生 <small>よく</small> し <small>よく</small>	虫 <small>よく</small> ひ <small>よく</small>
粟山子	引板	唱子	むく鳥
山 <small>よく</small> く <small>よく</small>	四十から	ひ <small>よく</small> ひ	ふ <small>よく</small> ふ
目白	まん <small>よく</small> 雀	せ <small>よく</small> ま <small>よく</small> れ <small>よく</small> い	さ <small>よく</small> い <small>よく</small> ま <small>よく</small> さ <small>よく</small> み <small>よく</small> と <small>よく</small> ん <small>よく</small> ぶ <small>よく</small> あ <small>よく</small>
石 <small>よく</small> ふ <small>よく</small> き <small>よく</small>	庭 <small>よく</small> ふ <small>よく</small> き <small>よく</small>	川 <small>よく</small> せ <small>よく</small> こ	こ <small>よく</small> ひ <small>よく</small> 虫
いと <small>よく</small> い <small>よく</small>	こ <small>よく</small> う <small>よく</small> わ <small>よく</small> が <small>よく</small>	か <small>よく</small> ま <small>よく</small> き <small>よく</small> り	蛇 <small>よく</small> 穴 <small>よく</small> 下 <small>よく</small> 八
う <small>よく</small> ふ <small>よく</small> さ <small>よく</small> い <small>よく</small> 祭	籠 <small>よく</small> 釣	小 <small>よく</small> 瀬 <small>よく</small> 川	お <small>よく</small> ひ <small>よく</small> 鞋
			鞋

九月

今年采	夜 <small>よく</small> 夜 <small>よく</small>	た <small>よく</small> く <small>よく</small> 家 <small>よく</small>	了 <small>よく</small> 家 <small>よく</small>	舍利 <small>よく</small> 云	醜 <small>よく</small> 砌 <small>よく</small> 祭
以香宮	大坂生玉	下鳥羽	四位 <small>よく</small> 多 <small>よく</small> 祭	白河祭	せ <small>よく</small> の <small>よく</small> 奉 <small>よく</small> 幣 <small>よく</small>
小糸 <small>よく</small> 祭	北野 <small>よく</small> 祭	七布 <small>よく</small> 祢 <small>よく</small> 祭	鞆 <small>よく</small> 祭	栗田 <small>よく</small> 口 <small>よく</small> 祭	一 <small>よく</small> 宮 <small>よく</small> 祭
栗	神田 <small>よく</small> 神 <small>よく</small> 祭	岡 <small>よく</small> 崎 <small>よく</small> 祭	山口祭	呉服 <small>よく</small> 祭	ち <small>よく</small> や <small>よく</small> 左 <small>よく</small> 祭
え <small>よく</small> ん <small>よく</small> 世 <small>よく</small> 祭	城南 <small>よく</small> 寺 <small>よく</small> 祭	座間祭	天 <small>よく</small> 坂 <small>よく</small> や <small>よく</small> ま <small>よく</small> 祭	太 <small>よく</small> 秦 <small>よく</small> 祭	岩 <small>よく</small> 倉 <small>よく</small> 祭
菊	河 <small>よく</small> ま <small>よく</small> り <small>よく</small> 酒	淀祭	住吉 <small>よく</small> の <small>よく</small> 市	木 <small>よく</small> 幡 <small>よく</small> 祭	師 <small>よく</small> 子 <small>よく</small> 谷 <small>よく</small> 祭
青 <small>よく</small> 豆	あ <small>よく</small> く <small>よく</small>	本 <small>よく</small> の <small>よく</small> 之 <small>よく</small> 親	逆 <small>よく</small> 髪 <small>よく</small> 祭	小 <small>よく</small> 山 <small>よく</small> 祭	鳴 <small>よく</small> 滝 <small>よく</small> 祭
母 <small>よく</small> 村 <small>よく</small> 祭	藤 <small>よく</small> 力 <small>よく</small> 先 <small>よく</small> 陣	豆 <small>よく</small> 名 <small>よく</small> 月	木 <small>よく</small> 練	木 <small>よく</small> 床	杖

向ま干	こりん	金かん	父年母	丸めろ	ゆ
ぶくろ	いてう	梅そと	有その実	稲刈	もみち
鳥甲	きこく	番船	きんせう	これちう	ちくそ
こが	ひさき	とら	あまのま	芦の穂	推
楓	茸がこ	刈田	あまかつち	午時花	岩まんけ
鴨以美	色久ぬ松	そろのむ	かしん	ろんご	ぶんご
豆引	うづき	茸表	松露	鹿ふへ	お茶軒
粥の黒漬	あま雨	こ	枯		

十月

神送	井の田守	〜	〜	〜	〜
亥の子説	おお	十夜	火焼	火焼	炭焼
小春	東御寺山忌	込花會	維平	蓮平忌	川のい
木枯	あま	あま	枯やま	もみち	枯野
冬か返へ	あま	汁む	きん	綿う	砂つ
こゝ子	糸子	紙ぬす	火桶	枯尾	くす
松のむ	松祀の花	細豆汁	あま	ひの	双巾
たん	あま	けの	茶坊	茶山	くす
大根引	うづ	干菜つ	あま	鴨	屋越鴨

夜更引 夜更
このマシ 千鳥
その子鳴 ぬくと
籠 なるこ

十一月

香奏 冬に至
みづき 霞
小豆衣 空也忌
袴着 春日御祭
ひまわり 阿久比
大川鯨 細代守
雪 子祭
まごじ 祈打
大師講 宇賀祭
新嘗忌 冬祭
茶の湯 冬椿
多せんむ 人冬川
埋火 冬さく
小祭

日蓮宗 柳 室の樹 しんぼ かこい ぞめ
小島の池 けらく ありけり 冬鳥 炭の皮 ぞめ

十二月

か子朝日 大恒山忌 冬人如入 寒垢難 冬梅 衣配
北納 赤土塗る 阿つまむい 庭火 年筆 節分
臘八 ぬくろち 冬と苦鳥 きのこ初ま 柿ど 平治乱
冬造り酒 かんトキ すすき子 つまらさき ちりち ちりち
年とすれ 冬晒 餅つき 小もち ちりち 思入
春ちりさ げこし 室ふゆ 年月の表 冬まよひ ちりち

日と併う、やくちひ 平ふ 終る 和布列神事 畢未
大海日

月並天象

月ハ

日ハ

天ハ

空ハ

東西南北

花菱植物

月と月五夕去月と月並の月三夕去跡生降走等ハ跡くも若ううは
春夏あとも月に一季の月三夕去ううのうす

日と日三夕去きあふ夕去跡くも夕うううは今日明日ハ二夕去日並ふ
幾日ハ二夕去日比月並月の短ハ三夕去

天と四アと四音訓の例各准く天アと移入くもハつたり空三夕去
半天ハ七夕去

晴曇 四 心の晴
雲風 三夕去風
嵐 嵐名ハ嵐か
音訓 三夕去
音訓 四

正記四 名を辨る

梅四 名を辨る

梅四 名を辨る

梅四 名を辨る

梅四 名を辨る

梅四 名を辨る

夏以実探系様梅松等探候の梅探候様銅の

草木松竹

五句去松風以松の

紅葉

二梅探候等以楓と一

紅葉四

秋以実探系様梅松等探候の梅探候様銅の

柏垣植四 名を辨る

雪并降物傳物

雪四 春の雪不二の雪ハハ外ハ
既の雪何物ハセリ去

霜二 春を去
折を去

露三 去
去

雨四

鳥并生類

鶴一 田鳥

時鳥一 名に

鷹二 名に

鷹二 名に

鷹二 名に

鹿二 名に

馬二 名に

鹿一 名に

鹿一 名に

鹿二 名に

鹿二 名に

竜虎一 名に

竜虎一 名に

蝉蝶二 名に

鳥一 名に

鳥一 名に

鳥一 名に

地形并山類水色

名所

三勺去但志賀屋邊と
又知紀ハ七勺去

地名

三勺去
各所と三勺去

國

四音訓ハ
久々

京

九重洛中
平安塔

等々

都

市

過

津

谷

峯

岸

坂

滝

園

海

沢

流

瀨

島

磯

池

橋

井

關

岩

山

川

田

浦

の字表茂嶺ハ海糸小和田の系
遠小洲吞范の洲面茂嶺ハ

三勺

去

表

嶺

石

温

石

磯

原

垣

籬

籬

折

張

庭

場

二

移

入

三

勺

去

村

四

居

所

小

二

むし群もむし馬ハ三勺去むし
紅系杉のむしハ七勺去

居所

禁中

内裏大内云々井
等ハ三勺去

井

窓

二

名

院

二

庖

殿

門

宿

音訓ハ久々
宿ハ舍面茂嶺

軒

家

巡

屋

四

杉

屋

床

七勺去床邊板外柱
の床ハ云々

神釋

神社

四音訓に久く并主
社名を表成す

宮

二名成す又二
多音訓に又一

祭

二名成す又二
玉名を表成す

佛

四

音訓 堂塔

二内所
名一所

寺

四音訓名成
分る寺名

人倫

君姫男女老若

四君老ふ二主君姫君も音訓之く又古人の名又依保
姫姫とせと移るく男ハラ女ハメジヨニヨと移るく

老若生老ふ之く
四音訓にも

友親子

二生老に又二
多音訓にも

殿

一音成す
又一

児

児様ヨ
又一

付

一音成す
又一

獨

耳足

二生老に又二
吳に又一

目口顔病

四目生老細の目く又く病
ハ音訓ソくに移る

食類

茶塩酒湯餅喰

四音訓書ニラサキハ酒の
吟セウ去標孟の類

時候

年

四トセ子
年旁ハセウ去

春夏殊冬

去

子不妻近

各一但子の年子の日の花ハ
庚申巳の日の祓ホ今

夜暮

去

昼

四音訓

夜半

二宵

寒

四冬

朝

八

今

七夕去

且

夕

夕アハセウ去
夕三六三夕去

涼

一姊

冷

一姊

姊

姊風

春風

姊の風其の風

又

器用衣類

玉筆墨車糸針

四花筆ハ筆尾筆の似るに之を余ハ筆也
此亦准以糸以何物の糸車に車程表を纏

帛四音鐘二入相

弓矢鞞壺

一云鞞今一年の矢と又二經一各を付く
鞞ハ馬を以て之

經一名を付く又一

金銀

一云子ある子小令一
金銀砂子折

綱代

一綱代言と今一ウ
一持衣と又一

字類并態藝虛復

刈賣買習詠苗語恨恋忍守旅遊
埋頼礼洋参吟舩丸敷物舌符四系本二

余泓四内亥

霞吞

多獸ノ吞表成變不

代借昔法

吉訓法をハ表成變不

碎舟魚

舞久々に

虚

ウソトコトウソトコト

古契

賑

悲

迹淋慰

詞くしのく

文

哀旅一玉幸一

冴

歌

各二記通

居所後右

真真高世光下左右大上火待

御各音例

フニフミゴ

青黄赤白黑

四記

色八持の音訓子ハ

十近七夕一ヨリ

表成變不七夕去

差洞思烟

五夕去

小只赤

二夕去

年二丁葉
示く^{類々に}爲^{二ツ}比^四免^ハ爲^ハ三字^伍名^ハ
五字^伍名^四馬^{ラニ}_{ニウ去} 馬^{ラニ}_{ニウ去} 馬^{ラニ}_{ニウ去} 爲^ハ爲^ハ_{ニウ去} 爲^ハ爲^ハ

同類折減

石火矢^{銃砲} 帽子^{馬帽子} 炉^{火爐} 歌^{連句} 鬼^{鬼百合鬼}
馬^{一約} 糸^{糸店} 氷^{氷室} 沓^{木履} 姑^舅 伽^伽 羅^羅 産^産 既^既

太刀^カ_カ 妻^{イモ} 傾城^{提君}

同面減

碁^持 零^備 笛^{尺八} 子^孫 親^此 寢^眠 弓^矢
蘇^蘇 軍^合 楓^{紅糸} 都^都 哥^{短冊} 猿^猿 佛^井
庭^{坪の内} 年^子 高^根 扇^扇 宿^舎 古^昔 口^唇
同^{生數の目} 命^{玉の法}

七勺去

子

上ヨ下ヨ

場

苑

様

姓

羹

句

香

峯

屋上

寺

堂

毎

篠

寝

園

國

別

唄

謡

馬

鞍

控

開

堰

雪

吾反

色

神

神子

朝

今

燈

燭

上

上

別

急

きぬ

く

紅葉

皆出

かき

徒

然

淋

同之勺去

代世

道

踏

新

蔭

田

畑

田

苗

雨

白

取

たれ

時

多

目

細

目

同二勺去

一文字

獨

火

薪

風

屏

風

松

の

色

引

本

換

牛

牽

滯

返

田畔

下知の假名

濁り假名

佛學則

貞享式目并解

諸礼停止

佛誥八人和をなすべくも畢隔なく交さ六拜
俵ふりく席上の喧嘩をいふるり不礼致
免すふきりつら

出合遠近

勺の一同に出る時若き偏乃き遠をゆくらく
まゝに方へ候す人

但多先

声先と八千勺の用

小語低色

席上母くむる免母命しや誠嬉しし也

一句一直

句偈りて中を等さし合は時の用なり

月花一句

言はれ系物なれはる程をすらのむむるし守
但小連の時ハ制外

佛 席 覺 悟

發句ハ宗匠も人孫者老人もよくし月並の會ハ制外

人の求むる如く誠生はるるは

一度乃宗匠領納ち如くをを非くし守

句は伺ふは執筆を以宗匠之達まへし坐後多へるは

指含さる嬉ハ宗匠執筆も何れも自己乃見加ふる守

自句に付句が如く之のし守

傳有切字は苗のみつるも初んてて好くは

一 凡そ此極物月前の天象を思ふ人
 一 勺丈斤量ありし時宜ふ事ありしも再篇ありし寸
 具あり然る可なり
 一 池走ハ人の並涯は去り一 浩構をくく
 一 歳且推りる想追吾もも本式に長を解らるる何
 句と定りくふるなり一 横懐帝ハ本式あり今極の望懐
 紙ハ俗習なり一

一 試の点ありハ一 殊小宗通るは時乃好悪分ち難記を
 一 概草法式無一 師傳受く一 其内一二浅濁り勺を吟
 ナるも其人宗匠ハ二遍賞執り其外ハ一遍半吟
 一 文其卷ハ祖翁二見く又ハ松風形張用少一 硯を定る義
 ナ

切字大槩葉韻

横連声と云
 望五音と云

ワ	ラ	ヤ ○ <small>歎息 定疑</small>	マ	ハ ○ カハ
イ	リ ○ <small>リ セリ</small>	井	ミ	ヒ
ウ	ル ○ ル	ユ	ム ○ <small>ランヤ ナナシ</small>	フ
エ	レ ○ レ	エ	メ	ヘ
オ	ロ	ヨ ○	モ ○ <small>カモ トモ</small>	ホ

ナ ○ <small>サナナ モカ ヤ ナ</small>	タ	サ	カ ○ <small>疑 ガカ</small>	ア ○ 用
ニ ○ ニ 回	チ	シ ○ <small>三 世 シ ケ シ モ ナ シ シ</small>	キ	イ ○ 用
又 ○ ヨ マ	ツ	ス	ク	ウ ○ 合
子 ○	テ	セ ○	ケ	エ ○ 用
ノ	ト	ソ ○	コ	ヲ ○ 用 ヲ 迴

手仁波文字切

也誰

タタカ

何

イカハ、イカニ、イカニ

幾

イク

否

イナ

率

イサ

爭

イカラ

等

ナツ

嘸

サツ

社

シ

キ

キ

ス

テ

テ

切字の

我

ワ

別

ワ

傳

ワ

切

ワ

帛

ワ

あり

ワ

古

式

シキ

二

シ

の

シ

我

ワ

疑

ワ

皂

ワ

来

有傳切字名目

心切、中の切、族投切、二段、三段、越四、以四、大四、玄妙の切、

夕續の切、吾名の切。

表の制詞

神祇教、悉、無常、述、懐、志、着、病、舛、但口名、所、比、名

人名、但口傳、宮殿、名、年号、古、邸、但口傳、爰、同、字、等、之

今式、若、か、か、か、か、都、世、親、子、老

表、亦、福、神、を、教、の、説、あ、れ、も、我、門、に、必、是、は、は、不可、用

畧々嬭

五勺去

春秋

二勺か
五勺を

夏冬

二勺より三勺迄も長く
平白ハ一勺ありも捨る也

月苑松竹舟踏衣枕菱洞の類 三字假名

三勺去

神祇教山類水邊夜分居所植物生類

旅躰 右九ふハ折用と替りて三勺と古式不出り
今ハ二勺より多くハ変化あり 衣類 速懐

哀傷 無常 時分 右五ふハ二勺傍きより三勺れも類
多し二勺去ありと知れり

恒記同字 虚服の字のみなり虚服ハ
形を記すの類あり

二勺去

天象 人情 多てハ障物
得相 器財 火作 病作

步行躰

右の類も
二勺つゝ

會物 系物 支躰 夙躰 五字

假名

右五ふハ二勺も
はくり

神ト 類 名所ト 地名 時分 生類

飲類 居所等躰用

躰ハ山海川家
用ハ 葦波水辺

季小液る物の部

二季に液る物 唇 唇 目 白 頰 赤 救 カシ 鵲 ヒキ 鷓鴣 ヒキ 燕 菽 入 出 代 彼 唇

拳入野拵

右ハ喜煉の二季小液る花後
吹送居来乃以ふ及む

袷 襪 雨 乞

川狩 袴 扇

右夏嫁の二季
了り

掛 乞

秋冬二季より余ハ類成
り知るべきなり

三季三季の季小渡る物 箭箭の季 箭箭の季 箭箭の季 箭箭の季

一 地 春夏 雑雑の季 雑雑の季 雑雑の季 雑雑の季

四季小渡る物 箭箭の季 箭箭の季 箭箭の季 箭箭の季

季季の季 成雑成雑の季 物

春ハ 鶺鴒鶺鴒の季 鶺鴒鶺鴒の季 野野の季 野野の季

夏ハ 給給の季 單物單物の季 扇扇の季 汗汗の季 風炉風炉の季 雨雨の季 乞乞の季 川川の季 持持の季

雑雑の季 燈燈の季 籠籠の季 暖酒暖酒の季 多多の季 威威の季 小鳥小鳥の季 の名 苧苧の季 苧苧の季 麦麦の季

但切差ハ 雑限

冬ハ 鶺鴒鶺鴒の季 居居の季 風炉風炉の季 措措の季 夜夜の季 肴肴の季 蒲團蒲團の季 靴靴の季 足袋足袋の季

綿帽子 居居の季 炉裏

右ハ 何何の季 止止の季 雑雑の季 雑雑の季 雑雑の季 雑雑の季 時時の季 春春の季 雑雑の季 同同の季 季季の季 三三の季 夕夕の季 去去の季 夏夏の季 冬冬の季 ハ 二二の季 夕夕の季 去去の季

畧畧の季 季季の季 立立の季 塔山塔山の季 の井井の季 等等の季 にもにも 物物の季 をを 出出の季 出出の季

春の部 鶺鴒鶺鴒の季 の芽 同同の季 花 鹿尾菜 青麦 薺薺の季 ノヒル 海蟹

夏の部 竹竹の季 落葉 散散の季 松葉 残残の季 花 苧苧の季 葉葉の季 を 苧苧の季 葉葉の季 百日紅 海棠

鶺鴒鶺鴒の季 葉葉の季 の巢 苧苧の季 葉葉の季 子

妹の部 屯畑 紅葉散 桂の花 別名 初鴨 年貢

木兔

冬の部 残菊 冬瓜 新式 せせげ忌 雪の附子 落の甚

綿入 綿打 雪海苔

俳諧 五部の経書

二十五ヶ條 備美口訣 せせげ翁傳書俳諧可伝く

せせげの撰 同拾遺 翁一代の集り可伝く

同七部集

冬の日 春の日 瓢 懐野 懐くの 炭俵 續懐くの

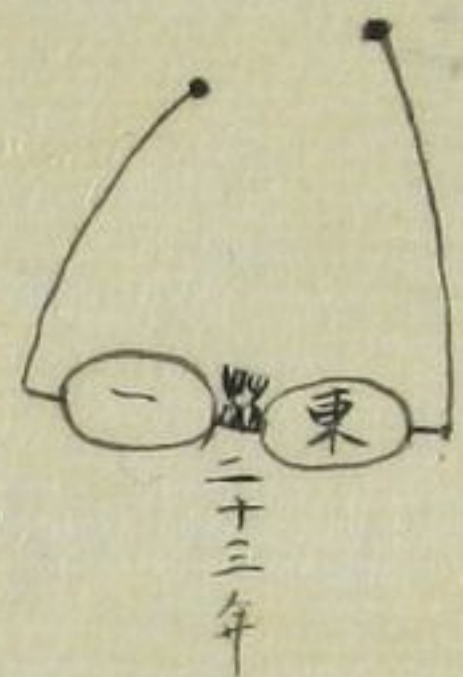
附合の格可效く

増山乃井 寄季詞 笥草式 季吟老人著季立可求く

嚏州 同大令 立甫叟撰去娘可寄く

各吟環字すく 其未の結集不家の書有暇
可同見強く せせげ翁傳書と

つ小物世々多し一皆後人の附會も亦少か
不可用



白兔園二世宗瑞



一路庵在江藏書

八

文化八年未十月

俳書所

作

京三文宗寺町東八入

菊舎太号

大坂心秘橋小久室与了

鹿島忠号

江戸本石町

同町西村漁六

全宗七

